



投資家・アナリスト向けMTG

2022年3月

日清食品ホールディングス株式会社

■ 本日のアジェンダ

1. 中長期的な企業価値創造プロセス
2. 創業者精神に基づく非財務の取り組みと企業価値の関係性の可視化・分析
3. 東京栄養サミット
4. 持続可能なパーム油調達
5. 気候変動（TCFD）への対応
6. プラスチック問題への対応
7. EARTH FOOD CHALLENGE 2030

1. 中長期的な企業価値創造プロセス

グローバル社会を取り巻く5つのメガトレンド

- 自国第一主義の拡大・深刻化と多国間協調のせめぎ合い
- 国民国家 (nation state) 』と「国民経済 (national economy) 」の重要性再認識
- レガシーグローバリズムの修正とネオグローバリズムへの移行
- **世界標準の拡大 (SDGs、BEPS、IFRS、ISO、ANTI、HSR)**
- **政府や国のルール・規制 (SBT、TCFD、RE100、EUタクソミー)**

- 多岐にわたる米中対立とその常態化、デカップリングの進行
- ロシアによる新たな地政学リスクの展開とデカップリングの更なる深化
- グローバル・バリューチェーン (GVC) の脆弱性の露呈と生産拠点の見直し
- 資材価格の高騰や景気回復によるインフレの加速
- コロナ沈静化により消費が回復している国と新種感染が延国の格差拡大



テクノロジーの進化

- **デジタルトランスフォーメーション (DX) の更なる推進**
- リモートワークの定常化によるオンライン化、デジタル化の進展
- 非接触型サービスモデルの需要増加、工場の機械化の更なる進展
- 「無人化」の進展
- **サイバーリスクの増大**



グローバル化の進展 vs. ナショナリズム台頭

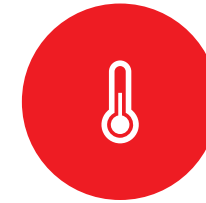
- 感染防止策の定常化 (マスク着用、3密の回避、消毒の実施)
- 新興国や貧困層を中心とするワクチン接種対応の遅れと感染拡大
- **都市への集中の見直し、ジャストインタイムからジャストインケースへ**
- BCP防災対策における感染予防の重要性増加(自然災害とコロナの同時対応)
- リモートワークの拡大と働き方やオフィスの変化、ハンコ・紙文化の消滅
- オンライン購買やデリバリービジネスの増加
- **Millennial、Gen“Z”世代の台頭と価値観の変化**
- **COVID-19感染拡大を背景に高まる「S (社会) 」への関心**



社会／人口構成の変化



経済カシフト／地政学リスク



気候変動と資源不足リスク

- グリーンリカバリーの重要性、必要性への注目度の上昇
- フードショックへの対応
- 炭素税の導入やプラ容器規制など環境規制の強化と範囲の拡大
- 循環型経済への取り組み伸展
- マテリアル・リサイクルからケミカル・リサイクルへの変化
- 自然災害の激甚化
- 生物多様性への関心の高まり

日清食品グループの価値創造プロセス



経済的価値と社会的価値の創出

インパクト

重点取組テーマ

非財務価値向上に向けて、Well-beingとSustainabilityの2軸で取り組みを進めている



2. 創業者精神に基づく非財務の取り組みと 企業価値の関係性の可視化・分析

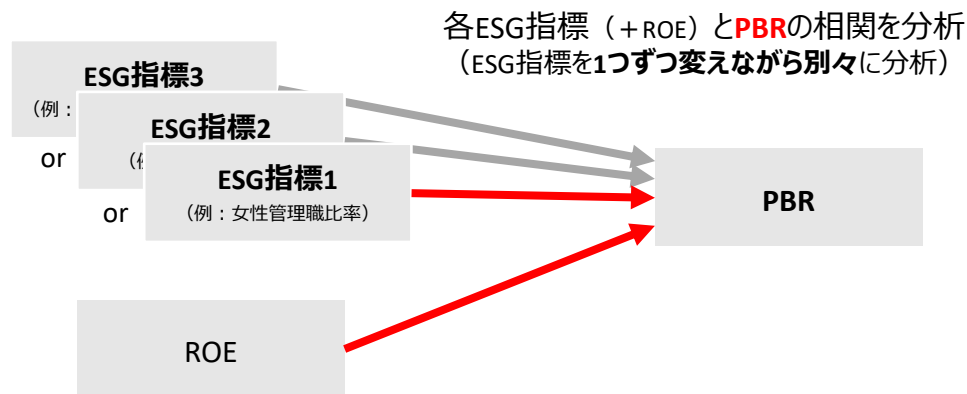
1 俯瞰型分析と 2 価値関連性分析

- **俯瞰型**：ESG指標とPBRの直接の相関を分析。学術的な信頼は高いがESG指標同士の分析は扱えない
- **価値関連性**：ESG指標とEPS、PERの関係性に加えESG指標同士も分析することでストーリーとして理解可能

1 Return On Sustainability Index (俯瞰型分析)

- Pros：エーザイ社柳CFO考案モデルを使用しており、**学術的にも信頼度が高い**
- Cons：ESG指標同士の関係性は分析できない。また**当社はPBRを主要経営指標としていない**ため、経営指標として利用し辛い

イメージ



2 Return On Sustainability Index Correlation (価値関連性分析)

- Pros：当社が**経営上重視する「EPS」と「PER」との関係性が分析可能**。また**“ESG指標同士”の関係性がわかる**ため、社内的なオペレーション改革に活かしやすい
- Cons：柳モデルのように学術的な信頼度があるわけではない

イメージ



1 Return On Sustainability Index (俯瞰型分析)

創業者精神に基づく当社の活動が、定性面*に加えて定量データに基づく分析**の側面からも企業価値向上に繋がることを明らかにした

ESG-KPI (抜粋) と企業価値へのインパクト**

- 市場規模の拡大 (2年後に+8.5%)
ESG-KPIを1%改善した際、
"何年後"に"何%PBRが向上するか"を示す
- 研究開発費 (7年後に+1.4%)
- Creative & Uniqueなコミュニケーションによるブランド力の向上 (6年後に+5.5%)
- 社会課題に貢献する商品数 (当年に+1.0%)
- 食育イベントの開催数 (7年後に+0.7%)
- 育児短時間勤務：女性 (1年後に+0.7%)
- プラスチック使用量 (4年後に+1.2%)
- CO2排出量 (8年後に+1.0%)
- 水使用量 (10年後に+1.8%)

ミッション：創業者精神

食足世平

食が足りてこそ世の中が平和になる

食創為世

世の中の為に食を創造する

美健賢食

美しく健康な体は賢い食生活から

食為聖職

職の仕事は聖職である

当社の重点取組テーマ (非財務)

- 食の安全安心
- 持続可能なサプライチェーンの構築
- 食の安全安心／人材育成、イノベーションな組織基盤の開発
- 責任ある製品表示・お客様コミュニケーション
- テクノロジーによる食と健康のソリューション提供／責任ある製品表示・お客様コミュニケーション
- 食の安全安心／責任ある製品表示・お客様お客様コミュニケーション
- 気候変動問題へのチャレンジ
- 資源有効活用へのチャレンジ

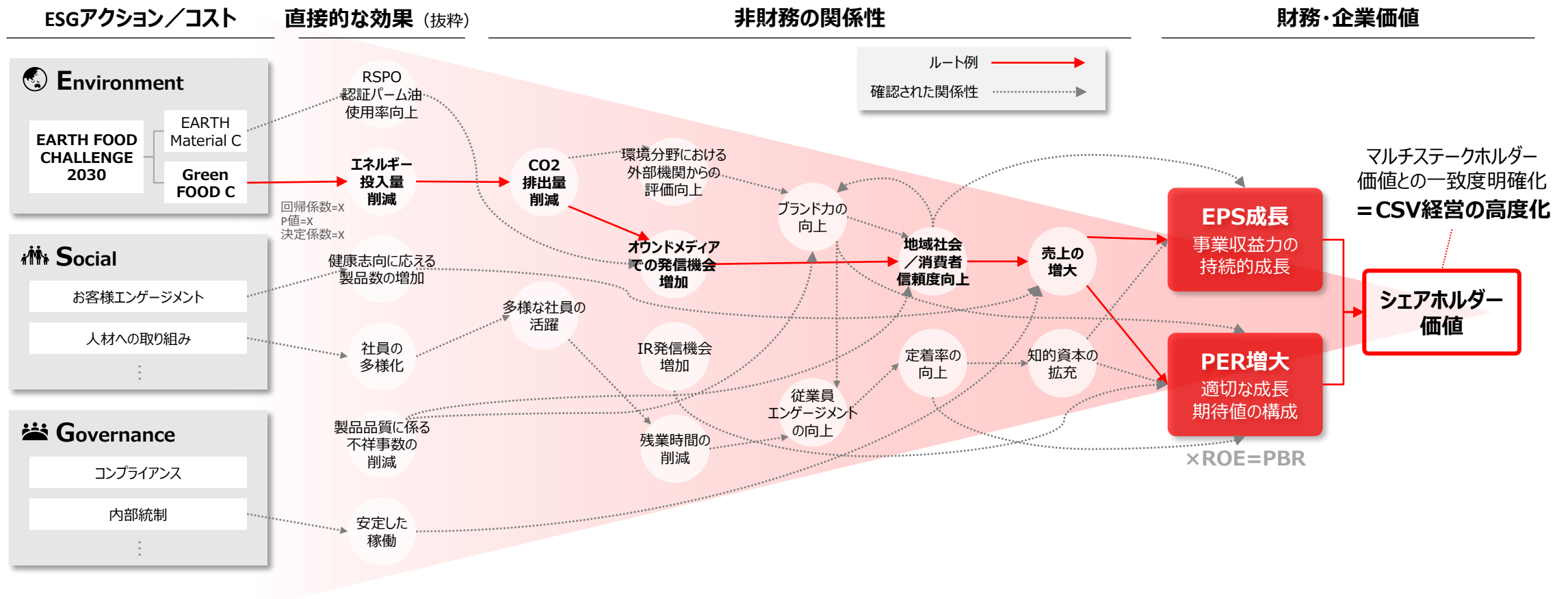
“定量”によるアプローチ

“定性”によるアプローチ

* SASBマテリアリティマップをはじめとする各種外部評価機関の項目を考慮し、将来的な財務インパクトが高いと想定されるESG要素を特定した当社の重点取組テーマ
** “CFOポリシー (中央経済社2020)”にて柳良平氏が開発したモデルに基づき、アビームコンサルティング株式会社のDigital ESG Platformで分析 (2021年3月)

2 Return On Sustainability Index Correlation (価値関連性分析)

ESG指標と企業価値の関係性だけでなくESG指標同士の繋がりも可視化



* 指標および関係性は分析結果から一部抜粋し表示

分析結果サマリー*

全社から収集した274件のESG指標を使用し、①俯瞰型、②価値関連性それぞれで分析。複数の望ましい相関が検出され、他社比較**が可能な俯瞰型においては約2倍の割合で検出

1 Return On Sustainability Index (俯瞰型分析)

- 俯瞰型利用の198件中、79件で望ましい相関あり
- 他社比較では、約2倍の割合で望ましい相関を検出

ESG	収集指標全数		ずらし年数の平均	望ましい相関の割合		
	俯瞰型使用	望ましい相関		当社	他社平均	
E	65	50	17	8.46	34.0%	19.9%
S	138	108	46	5.56	42.6%	21.2%
G	46	29	11	4.31	37.9%	21.1%
-	25	11	5	10.45	45.5%	
計	274	198	79	6.38	39.9%	21.4%

2 Return On Sustainability Index Correlation (価値関連性分析)

- 俯瞰型 (PBR) 同様、PER、EPSとの単相関分析でも望ましい結果を検出した

ESG	収集指標全数		価値関連性使用		ESG指標同士		
			相関あり:		使用指標数	組合せ(仮説)	望ましい相関
			PER	EPS			
E	65	56	21	20	14	109	54
S	138	124	54	33	25	118	51
G	46	34	12	7	7	34	20
-	25	22	12	10	4		
計	274	236	99	70	50	261	125

* 抽出条件：自由度調整済み決定係数：0.5以上、ESG KPIに係るp値：0.05以下

** ABeam社がDigital ESGを受託している複数社における分析結果の平均値（2021年3月時点）

3. 東京栄養サミット

日清食品グループとCSV経営の歩み

創業時
食糧難の時代

4つの創業者精神

食 足 世 平

しょくそくせへい

美 健 賢 食

びけんけんしょく

食 創 為 世

しょくそういせい

食 為 聖 職

しょくいせいしょく

現代
食糧飽和の時代

即席めんの開発原則

開発5原則

安藤百福創業者会長
(1958年)

- 1 美味しさ
- 2 安全性
- 3 簡便性
- 4 保存性
- 5 安価



開発7原則

第9回世界ラーメンサミット
(2018年)

- 6 栄養と健康
- 7 環境保全

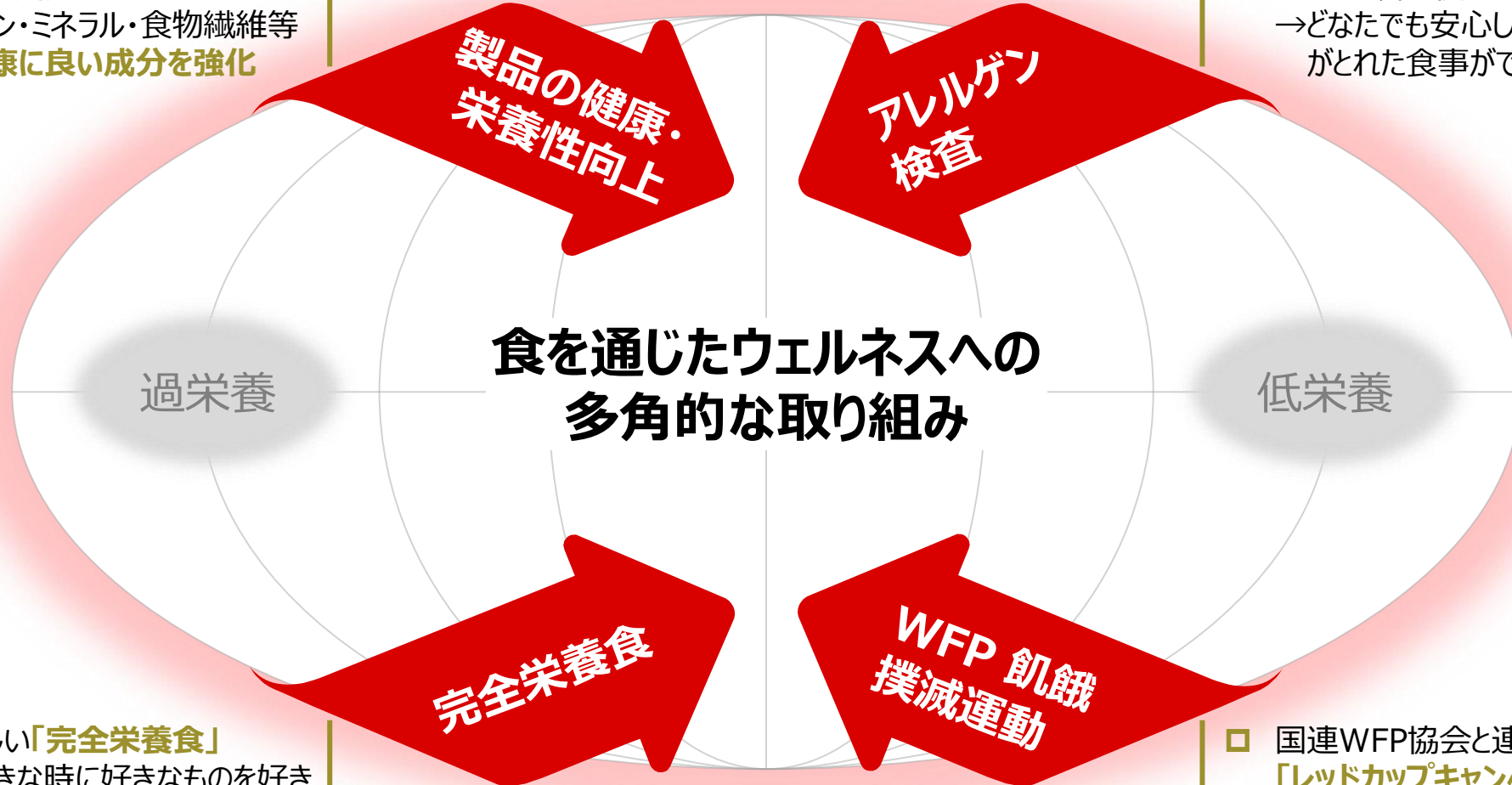


食を通じたウェルネスへの取り組み – 栄養不良の二重負荷解決に向けて –

- 過剰摂取が健康に悪影響を与える成分を削減
- ビタミン・ミネラル・食物繊維等の健康に良い成分を強化

各ステークホルダーとの協働

- アレルゲン推奨表示品目を精度高く、一斉に検査する新法の開発
→どなたでも安心して栄養バランスがとれた食事ができるようサポート



- おいしい「完全栄養食」
→好きな時に好きなものを好きなだけ食べながらバランスよく栄養を摂れるようサポート

- 国連WFP協会と連携実施の「レッドカップキャンペーン」
- 様々なプログラムへの特別協賛

コミットメント 1

ウェルネス製品




全製品の健康・栄養性の向上を進める。
ウェルネス製品について、2030年までに年間230億円に販売拡大する。

2030年までに**アレルギー推奨表示品目**を精度高く
一斉に検査できる**新規検査法**を開発する。
本法を用いて、**累計検査数10万回**以上分析を行い、**拡大・普及を進める。**

代替肉

即席めんの動物性たんぱく質具材について、
2030年までに**植物性たんぱく質の使用量を1,100トン**まで上げる。

食品廃棄物



日本での**流通・販売領域の廃棄物総量**を
2030年までに**50%**削減する（2016年比）。

4. 持続可能なパーム油の調達

持続可能なパーム油調達コミットメント

持続可能なパーム油調達比率100%の目標に加え、RSPOが定める「原則と基準」やNDPE (森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ)に基づく調達方針を掲げている

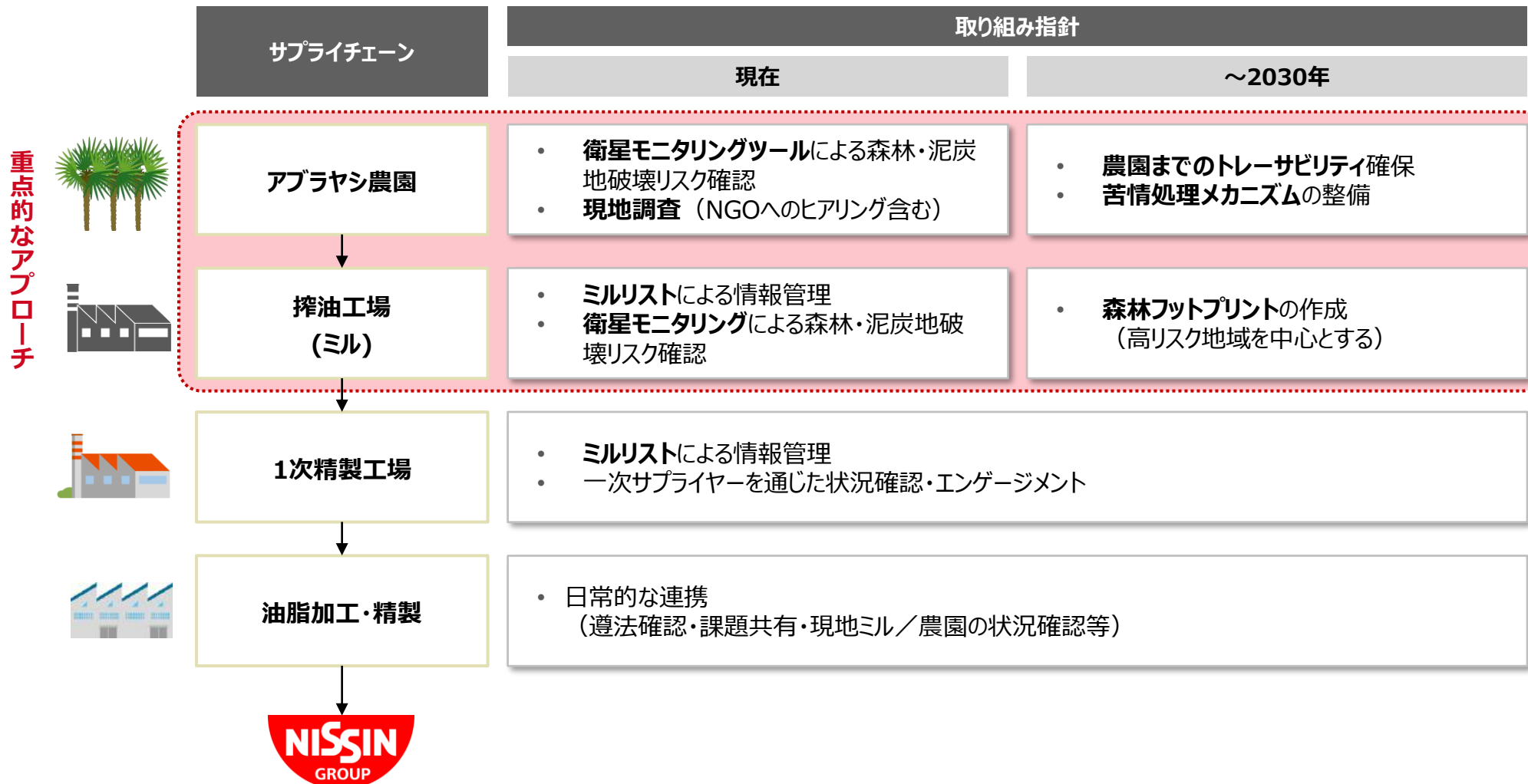
持続可能なパーム油調達コミットメント

日清食日清食品グループは、NDPE (No Deforestation、No Peat、No Exploitation = 森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ) を支持し、取引先等のステークホルダーの協力を得て、パーム原産地の環境と労働者の人権に配慮して生産されたことが確認できるパーム油を調達します。

- 保全価値の高い (HCV: High Conservation Value) 地域および炭素貯蔵力の高い (HCS: High Carbon Stock) 森林の保護、森林破壊ゼロ
- 深さに関わらない泥炭地の新たな開発禁止
- 植栽や土地造成、その他開発のための火入れ禁止
- 先住民族・地域住民の権利尊重・土地権侵害の禁止
- RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) が定める「原則と基準」の遵守
- 農園まで含めたトレーサビリティの確認

実践計画の全体イメージ

一次サプライヤーとの密な連携を前提に、今後はよりサプライチェーンの上流に対して包括的なリスク管理手法を導入予定（ミルリスト・衛星モニタリングなど）



ミルリストの作成

ミルリストとは、パーム油の搾油工場(ミル)を一覧化し、位置情報やユニバーサルミルリストのIDなどを集約したもの。近日中に当社ウェブサイトにて開示予定

Palm Oil Mill List

- ・ データ期間：2021年6月～2021年12月
- ・ 開示範囲：国内日清食品グループの調達分のうち、購入可能性があるミル

番号	ミル名	親会社名	国名	緯度	経度	ユニバーサルミルリストのID
No.	Mill Name	Parent Company	Country	Latitude	Longitude	UMLID
1	AAA	DDD	Indonesia	0.19	103.00	PO1000012345
2	BBB	EEE	Indonesia	0.10	103.17	PO1000012345
3	CCC	FFF	Indonesia	-2.66	112.77	PO1000012345

⋮

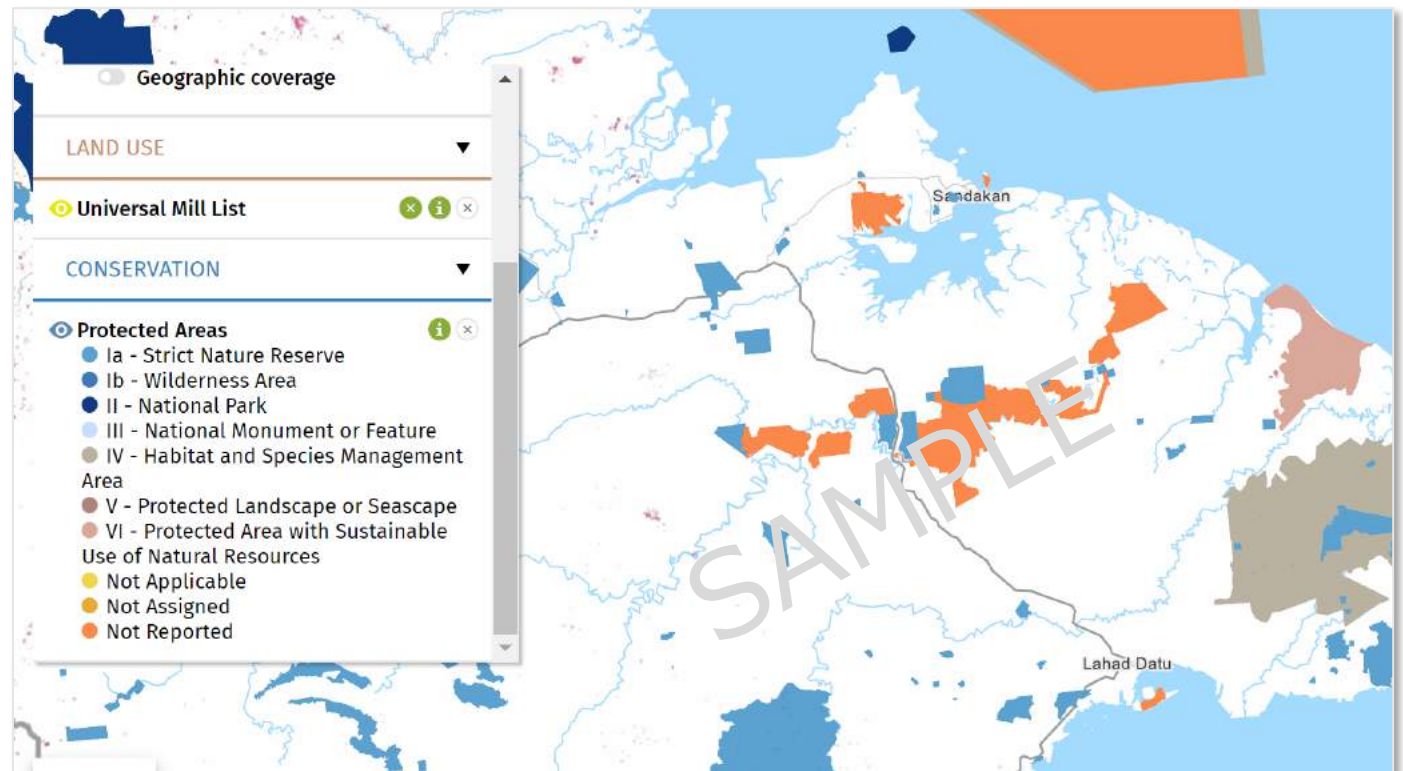
衛星モニタリング

ミルリストで整理したミル位置情報を地図／衛星写真と照合し、森林破壊等のリスクを把握。リスクが高いと特定されたミルに関しては、一次サプライヤーへ状況確認を依頼予定

「Global forest Watch Pro」によるリスク分析結果イメージ



森林保護区域との照合



現地農家／ミルの個別調査

20年10-11月に現地農家への個別調査を試験実施。今年度は、潜在的リスクが認められた農家・ミル等に対し、同様の手法で詳細調査を実施予定



1. 調査対象の決定

当社のパーム油サプライチェーン上にある特定のミルを中心とし、半径25km以内に位置するアブラヤシ小規模農家を調査対象として選定

2. 事前アンケートの実施 (2020年10月)

パーム油の持続可能な生産・調達に関する複数の外部基準をもとに、外部専門家・NPOの意見も踏まえながら、調査票（SAQ）を作成。1で調査対象に選出したパーム油小規模農家20名に対し、事前アンケート調査を実施。パーム油生産地における環境・社会課題への影響、農園の運営状況等を把握。

3. ダイアログの実施 (2020年11月)

事前アンケートを通じ得られた回答を分析し、懸念点／潜在的リスクを抽出。直接対話（オンライン）を通じ、懸念点の深掘りと状況のより詳細な把握、当社としての期待を伝達

4. フォローアップ・ダイアログの実施 (2020年11月)

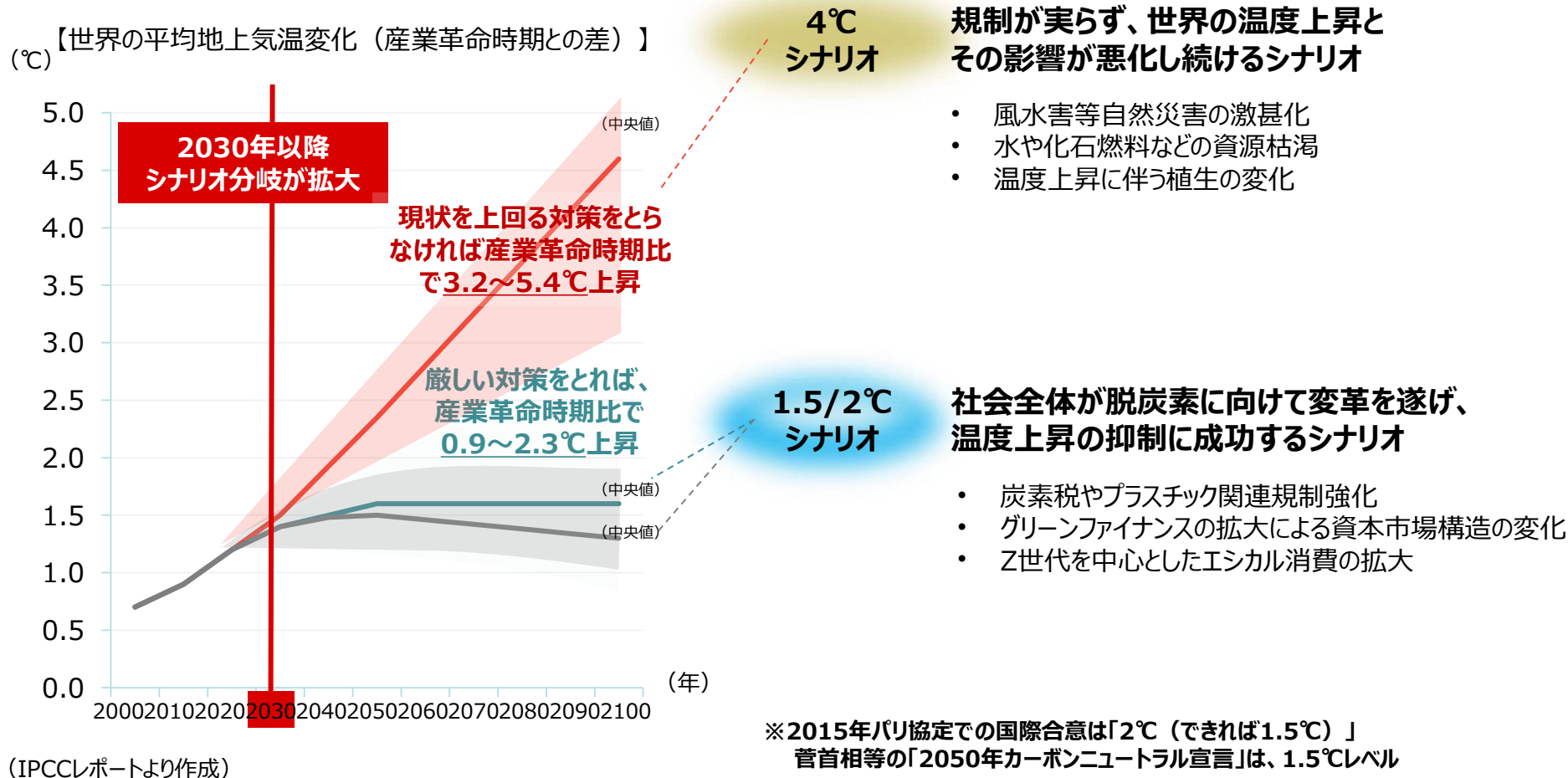
懸念点に係るさらなる詳細情報（背景・原因・運用実態等）を、現地協力団体を通じ追加確認



5. 気候変動（TCFD）への対応

気候変動 TCFDシナリオ分析

1.5/2℃および4℃シナリオにおいて将来シナリオを描き、2030年の日清食品グループのあるべき姿とともに、影響と対策を考察



TCFDが提言する開示項目に対する取り組み

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）が提言する「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」に関する情報開示に賛同

ガバナンス

- 気候変動問題は重要な経営課題であると認識し、取締役社長・CEOを委員長とする「サステナビリティ委員会」で気候変動が当社グループにもたらすリスクと機会となる要因をはじめとしたさまざまな環境課題への対応を検討。
- 2019年度は、当社グループの環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」を策定し、経営会議を経た後、取締役会に本戦略を報告。
- 2021年4月には「取締役会」の諮問機関として「サステナビリティ・アドバイザリーボード」を設置し、当社グループに影響を及ぼすESGテーマについて、経営層と外部有識者が協議する場を設置。協議した内容は外部に開示するとともに、会社の経営方針や各種施策に反映。

戦略

- 当社グループの環境戦略である「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」では、2019年度に実施した気候変動のシナリオ分析の結果をもとに、CO2排出量、水使用量、廃棄物における数値目標を策定。
- 目標の達成に向けて取り組むことで気候変動リスクを低減するとともに、ビジネス機会を創出できる企業体を目指して植物代替肉の使用推進や培養肉の開発、環境負荷の低い原材料の開発などの取り組みを推進。

リスク管理

- 当社グループでは、取締役会の管理下に「総合リスク対策委員会」を設置。環境リスクを含むさまざまなリスクの管理状況を把握し、企業価値の毀損を回避するよう尽力。

指標と目標

- 当社グループの環境戦略である「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」にて、2030年までにスコープ1、2排出量を30%削減し、スコープ3*排出量を15%削減する（18年度比）目標を策定。そのほか、廃棄物、原材料調達、水使用量に関する目標を設定。

気候変動リスクと対応

移行・物理リスクが財務に及ぼす影響を試算した結果、いずれのシナリオにおいても、対策を講ずることで財務への影響を最小限に抑え、レジリエンス経営を推進することが可能と判断

主なリスク

移行リスク

炭素税・国境炭素税などの規制

主なリスクへの対応（財務への影響軽減策）

製造工場への省エネ設備やシステムの導入

再生可能エネルギーの導入拡大

環境に配慮した製品の販売

物理リスク

水リスク（水害や水枯渇など）

原材料調達先の変遷

製造工場などにおける水リスクの多角的な分析調査

水の再利用などをはじめとした製造工場における効率的な水の使用

植物代替肉や培養肉などの開発

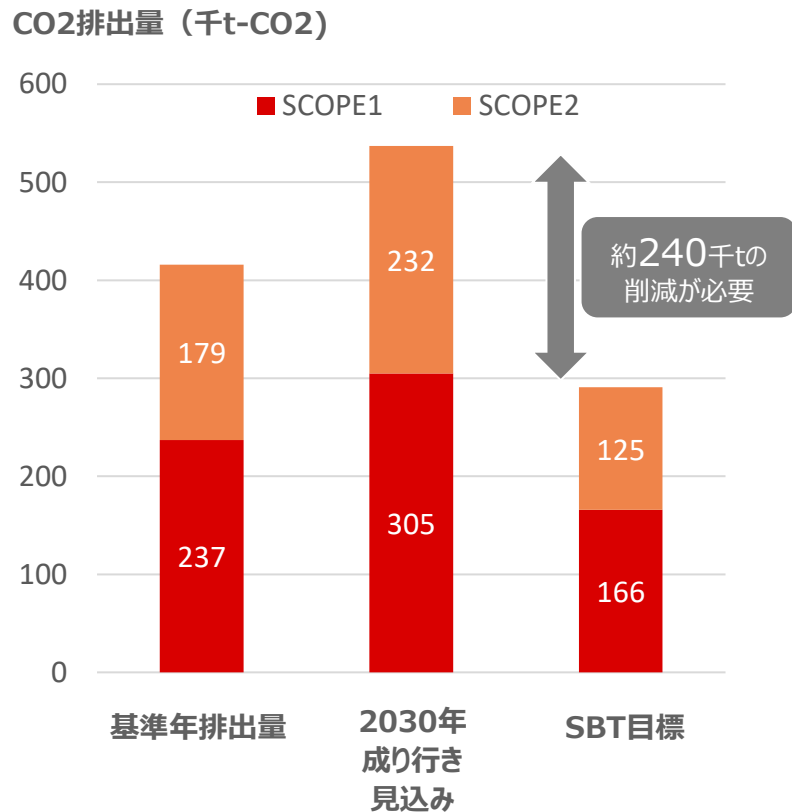
植物代替肉や培養肉などを利用した製品の開発

持続可能なパーム油の調達

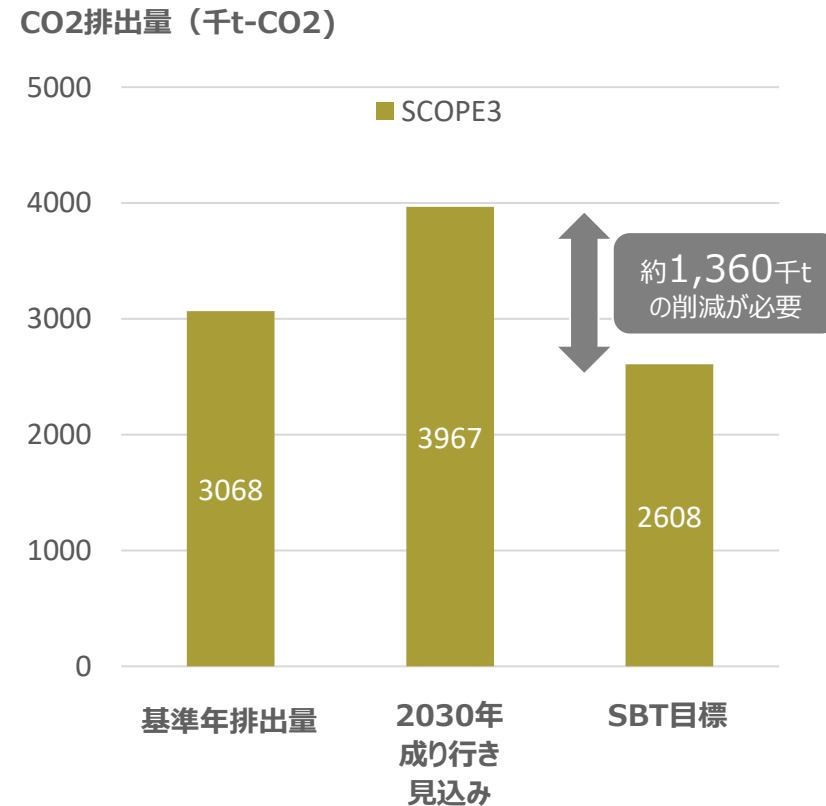
SBT目標と当社グループの現状

2030年までに、Scope 1-2は30%、Scope 3は15%の削減を目指す

Scope 1,2 目標値(2018年度比) : 2030年に30%削減



Scope 3 目標値(2018年度比) : 2030年に15%削減



Scope1と2での削減活動状況

製造工場では省エネ診断と再生可能エネルギーによる電力調達を推進するとともに、新技術の導入によるCO2削減も検討中



Scope 3での取り組み事例

Scope3削減に向け、「バイオマスECOカップ」等、製品を通じた様々な取り組みを今後も推進

「バイオマスECOカップ」への進化

「バイオマスECOカップ」採用が高く評価



導入年	素材		使用素材
'08年以前	EPS カップ	バイオマス度* 0%	石化プラスチック
'08年	ECO カップ	バイオマス度 71%	紙 石化プラスチック
'19年	バイオマス ECOカップ	バイオマス度 81%~	紙 バイオマスプラスチック

Wタブの採用

プラスチック原料の使用量を
年間で33トン削減



「おいしいeco麺」プロジェクト

プラスチックトレーを使っていない
おいしい eco麺

全トレー使用量
年間約
17%削減



対象商品の製造工程や包装形態を見直すことで、
プラスチックトレーを廃止
(日清食品チルドの年間使用量を約17%削減)

「謎肉」植物由来の代替食

Neo Natural Foodとは何か？

- Neo Natural Foodとは、植物由来の原料として作る代替食
- 現状は、“謎肉”として大豆ベースのNeo Natural Meatを使用
- 肉以外の素材への展開も検討中

期待されるCO2効果

原料別CO2排出量比較
(大豆を基準とした場合の他畜産の排出量)

原料	CO2排出量 (倍)
大豆肉 (基準)	1.0
鶏肉	1.7
豚肉	2.8
牛肉	12.0

最も環境負荷が低い

出所：日清食品試算

6. プラスチック問題への対応

容器包装の削減にむけた目標の策定

EFC2030「グリーンな包材で届ける」の一環として、容器包装に関する2030年目標を策定

容器包装に関する2030年目標 (2021年6月策定)

1

全ての製品に
環境配慮型の容器包装を使用します

- 基準年：2018年
- 対象：日清食品グループ 日本国内・海外



バイオマスECOカップ、ノントレー化 など

軽量・減容化、バイオマス化、紙化などの容器包装に関する改良はもちろんのこと、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、リサイクル素材の容器への活用なども含む



2

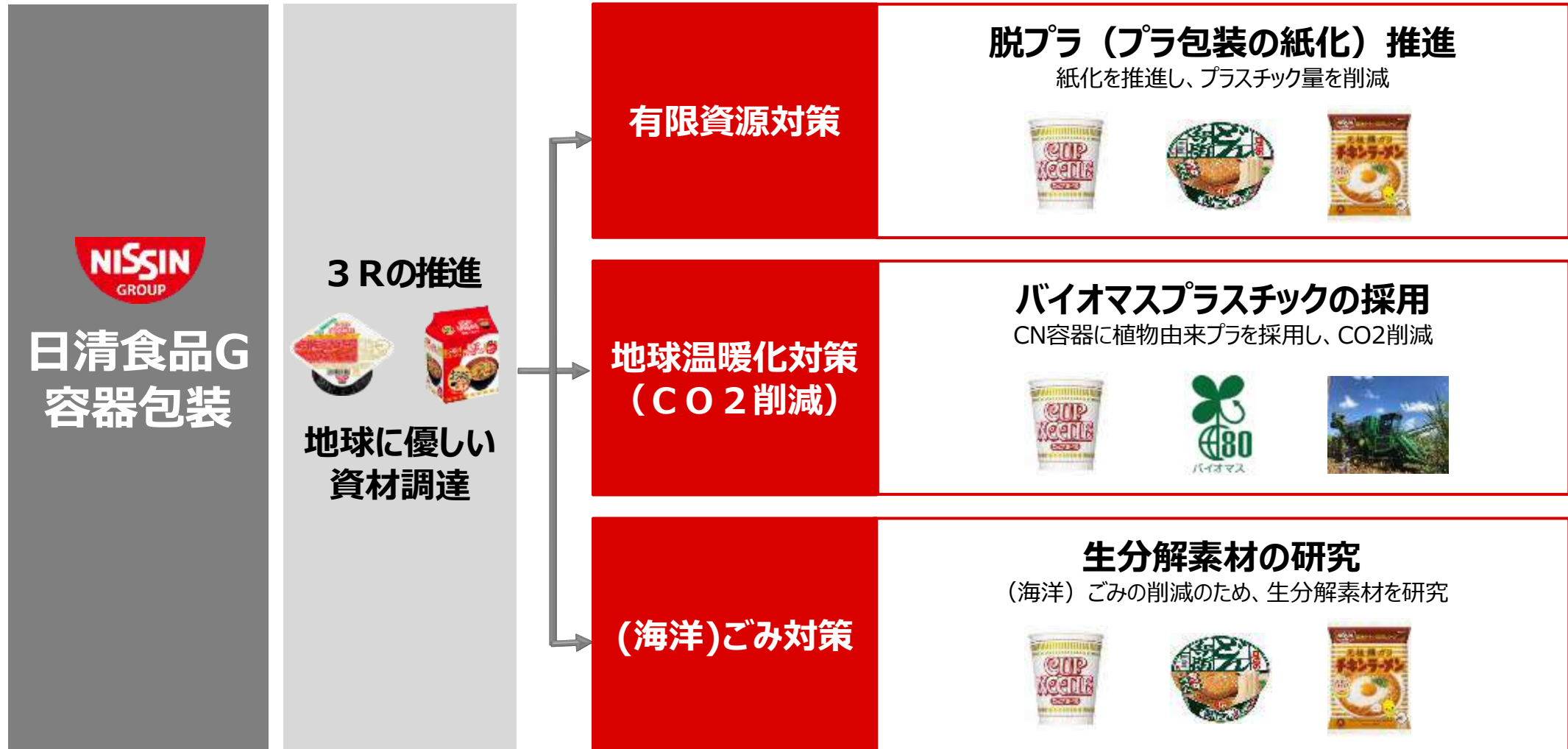
容器包装に係る「石化由来プラスチック総量/売上高」を20%以上削減します

- 基準年：2018年
- 対象：日清食品 日本国内



日清食品グループの容器包装における環境対応

3 Rの推進に加え、「有限資源対策」、「地球温暖化対策」、「(海洋)ごみ対策」にも挑む



バイオマスECOカップ[®]（日本で導入済）

カップヌードルはこれまでもエコ商品として進化するべく、改良を繰り返してきた

導入年	素材	使用素材
'08年 以前	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block;">EPS カップ</div>  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block;">バイオマス度* 0%</div>	<div style="background-color: gray; color: white; padding: 5px; text-align: center;">石化プラスチック</div>
'08年	<div style="border: 2px solid gold; padding: 5px; display: inline-block;">ECO カップ</div>  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block;">バイオマス度 71%</div>	<div style="background-color: gold; padding: 5px; text-align: center;">紙</div> <div style="background-color: gray; color: white; padding: 5px; text-align: center;">石化プラスチック</div>
'19年	<div style="border: 2px solid gold; padding: 5px; display: inline-block;">バイオマス ECOカップ</div>  <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block;">バイオマス度 81%~</div>	<div style="background-color: gold; padding: 5px; text-align: center;">紙</div> <div style="background-color: gold; padding: 5px; text-align: center;">バイオマスプラスチック</div>

* バイオマス度は植物由来素材の比率として定義 = (紙+バイオマスプラスチック比率)
 その他は食品の衛生・品質等を配慮して一部石化プラが使用されている（日清食品試算）

DO IT NOW ! Wタブリッド

フタ止めシールをやめて
プラスチック原料削減



にゃー



プラスチック削減量

33t/年

CO2削減量

168t/年



カップヌードル
@cupnoodle_jp

すでに発見された方も多いですが、こちら「チベットスナギツネ」といまして、遭遇率は6%となっております。

#チベットスナギツネ #遭遇率6パーセント



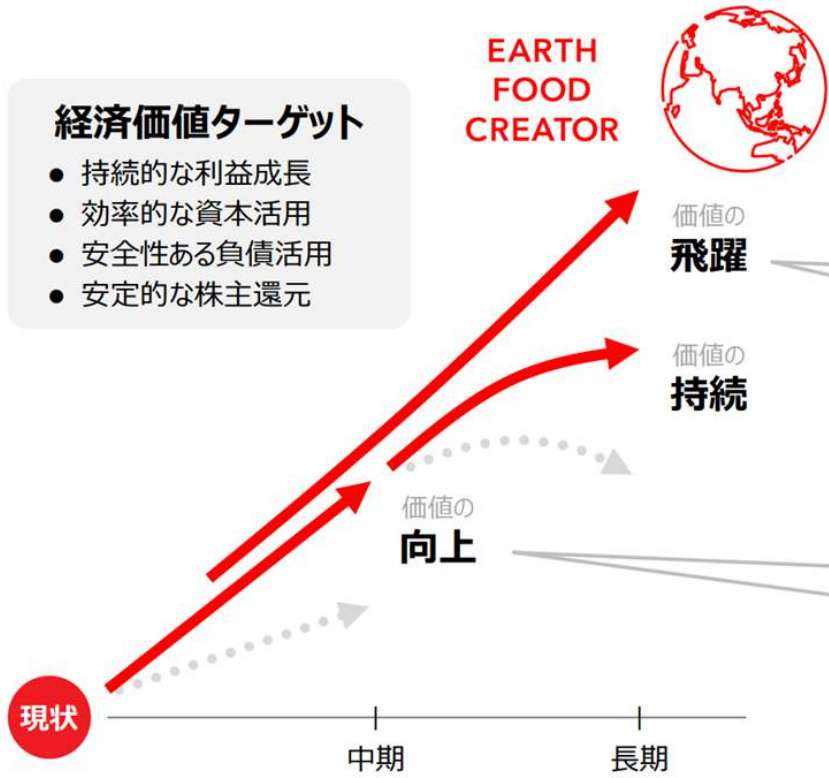
午前11:30 · 2021年8月5日 · Twitter Web App

7. Earth Food Challenge 2030

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

2021年5月に公表した「2030年に向けた中長期成長戦略」において、3つの成長戦略テーマのひとつに位置づけている

ビジョン実現へのロードマップ



3つの成長戦略テーマ 食 足 世 平 食 創 為 世 美 健 賢 食 食 為 聖 職

↑ 人 においしい、 社会 においしい、 地球 においしい。

3 新規事業の推進
 フードサイエンスとの共創による“未来の食”
 テクノロジーによる
 食と健康のソリューション企業へ

1 既存事業のキャッシュ創出力強化
 海外 + 非即席めん事業のアグレッシブな
 成長により利益ポートフォリオを大きく
 シフトさせながら持続的成長を追求する

2 EARTH FOOD CHALLENGE 2030
 有限資源の有効活用と
 気候変動インパクト軽減
 へのチャレンジ

Food Tech Innovation



EARTH FOOD CHALLENGE 2030

地球のために。未来のために。

資源の有効活用へのチャレンジ

Earth Material Challenge

地球に優しい調達



持続可能な
パーム油調達比率
100%

地球資源の節約



水の使用
12.3m³/売上百万円

ごみの無い地球



生産過程の再資源化率
99.5%以上
販売・流通過程の廃棄物
半減 *日本の実績が対象

気候変動問題へのチャレンジ



Green Food Challenge

グリーンな電力で作る



SCOPE1+2
▲30%
(対2018年比)

グリーンな食材を使う



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)

グリーンな包材で届ける



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)



EARTH FOOD CHALLENGE 2030

地球のために。未来のために。



SCIENCE BASED TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

*「Science Based Targets (SBT) イニシアチブ」とは国連グローバル・コンパクト (UNGC)、世界自然保護基金 (WWF)、CDP (旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)、世界資源研究所 (WRI) により2015年に設立

企業に対して産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑えるために、科学的根拠に基づいた温室効果ガス排出削減目標 (SBT) の設定を推奨している国際的イニシアチブ

気候変動問題へのチャレンジ

Green
Food
Challenge

グリーンな電力で作る



SCOPE1+2
▲30%
(対2018年比)

グリーンな食材を使う



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)

グリーンな包材で届ける



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)

本資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場の大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきください。

また、本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさっていただきますようお願い申し上げます。



日清食品ホールディングス株式会社